

社会参加推進事業における令和6年度の実績報告及び令和7年度の進捗状況				
項目	令和6年度の実組計画	令和6年度の実績	令和7年度の実組計画	令和7年度の進捗（7月末時点）
地域での居場所・役割	- 定期的に通える場つどい場「くろまつ」を実施する。 - これまで相談する側だった参加者の方が寄ってカフェを通じて役割をもって担い手として他者と関われる機会をもつ。 - ひだまりの会へ参加し、ご家族との関わりをもち、当事者へのアプローチを検討していく。	【実績】 - 月曜日の午前中に定期的につどい場「くろまつ」を実施。40回実施し、延べ159人参加。 20代の参加者が増加したことや「同世代と話してみたい。」というニーズもあり、くろまつヤング1回目を3月に実施しました。初回は3名の方が参加され、「同世代と話す機会になりよかった。次もありますか？」という感想を頂いた。 - 奇数月にコミュニティスペース「ふらっと」、偶数月に芦屋市保健福祉センター「高齢者交流室」で寄ってカフェを実施。計12回実施し、延べ136人参加。 - これまで相談する側だった参加者が、寄ってカフェを通じて、役割を持って、担い手として月に1～2名程度、参加。 【評価】 - つどい場「くろまつ」に通うことをきっかけに、家にひきこもり気味だった方が福祉サービス利用に至るケースや、就労体験、就職など次に進むきっかけとなっている。 - 就職した後の社会参加の場となり、職場や生活上の相談できる場となっている。 - 寄ってカフェに担い手として関わることで、役割を持って他者と関わる機会が持てた。 【課題】 - それぞれの段階やニーズに合わせた居場所やプログラムについて随時考えていく。	- 定期的に通える場つどい場「くろまつ」を実施する。 - 若年層向けのくろまつを企画、実施する。 - これまで相談する側だった参加者の方が寄ってカフェを通じて役割をもって担い手として他者と関われる機会をもつ。 - ひだまりの会へ参加し、ご家族との関わりをもち、当事者へのアプローチを検討していく。	【実績】 - 月曜日の午前中に定期的につどい場「くろまつ」を実施しました。7月末時点で15回実施し、延べ73人参加。 - 月に1回若年層向けのつどい場「くろまつヤング」を実施しました。7月までに計4回実施し、延べ10名参加。 - 奇数月にコミュニティスペース「ふらっと」、偶数月に芦屋市保健福祉センター「高齢者交流室」で寄ってカフェを実施。計4回実施し、延べ37人参加。毎月、就労準備・社会参加推進事業の利用者1～2名が、飲食物の提供者として参加している。 - 若者相談センターアサガオ親の会に1回参加。 - ひだまりの会に4回参加。 【評価】 「くろまつ」に通うことで、ひきこもり気味だった方が福祉サービス利用に至るケースや、次に進むきっかけとなっている。 「くろまつヤング」を通して、少人数で関われる同年代のグループとして、若年層の社会参加の場の一つとなっている。 - 就職後の社会参加や職場・生活の相談ができる場となっている。 - 寄ってカフェに担い手として参加することで、役割を持って他者と関わる機会を持つことができた。 - ひだまりの会に参加することで、当事者の方の近況をご家族を通じて知る機会になった。 【課題】 - 年代や個々に置かれた状況によってニーズが異なる場合があるため、くろまつではそれぞれのニーズに合わせたプログラムや対応を検討していく。 - くろまつヤングは参加者が少ないため定期的なリマインドを行い、毎回の参加率を増やしたいと考えていく。 - 外部にも寄ってカフェを周知し、新しい人と関わる機会を増やしていく。 - アサガオ親の会やひだまりの会への参加頻度を増やす。
就労支援	- 企業内の見学やちょっとしたお手伝いを通じて地域の企業とつながっていく。（単引き・植栽のお手伝い等） - 畑作業を実施。 - 対象者のニーズに応じて必要とするプログラムの実施。 - コープこうべめーむひろばを保健福祉センターで実施。 - PCに触れる機会をもつ。 - 対象者のニーズに合わせてボランティア体験や就労体験先を開拓し実施する。	【実績】 - 去年度から引き続き、保健福祉センターにて「めーむひろば」を毎週水曜日に実施。就労のイメージを持てるような場となった。 - 芦屋市内の企業についても訪問し、あいさつ回りを実施した。 - 苅谷工務店での植栽作業を年7回実施しました。植栽作業に参加された方で1名の方が就職につながった。 - つどい場「くろまつ」に参加されている方で、普段からパソコンに触れる機会が少ない方も月に1回定期的に通うことでパワーポイントを使ってチラシをつくることが出来た。 - 畑作業も継続して2ヵ所で実施し、延べ84名が参加。 【評価】 - 企業とのつながりが広がることで参加者の方と地域をつなぐ機会になっており、一歩を踏み出すきっかけとして大きな役割を担っている。 【課題】 - プログラムに参加してもらえる人を増やす。 - 今後も様々なニーズに対応できるよう体験先を開拓していく。	- 企業内の見学やちょっとしたお手伝いを通じて地域の企業とつながっていく。（単引き・植栽のお手伝い等） - 畑作業を実施。 - 対象者のニーズに応じて必要とするプログラムの実施。 - コープこうべめーむひろばを保健福祉センターで実施。 - PCに触れる機会をもつ。 - 対象者のニーズに合わせてボランティア体験や就労体験先を開拓し実施する。	【実績】 - 苅谷工務店での植栽作業を通して、利用者が外に出るきっかけになっている。 - 畑作業は週2回実施し、毎回2～3名が参加している。 - 定期的に参加者のニーズを伺いながら、「くろまつ」「くろまつヤング」を実施した。 - 保健福祉センターにて「めーむひろば」を毎週水曜日に実施し、1名が就職、1名が店舗実習に参加している。 - つどい場「くろまつ」で月に1度パソコンを操作する機会を設けることで、普段自宅にパソコンがない方やほとんど触らない方の練習の場になっている。 - 芦屋市内の団体や企業が集う「こえる場！」や「縁の場」に参加し、事業説明や名刺交換を実施した。 【評価】 - プログラムや就労体験をきっかけに利用者の活動に対するモチベーションが上がった様子だった。 - 継続して企業とのつながりを広げることで参加者の方と地域をつなぐ機会になり、一歩を踏み出すきっかけとして大きな役割を担っている。 【課題】 - プログラム内容の精査やリマインドを行い、参加してもらえる人を増やしていく。 - 今後も様々なニーズに対応できるよう体験先を開拓していく。
相談支援体制の機能強化	- 社会福祉協議会（地域福祉係等）と連携し、地域のボランティアグループや地域住民の方とのつながりをもつ。 - 阪神南障がい者就業・生活支援センター、障がい者相談支援事業と連携を図る。	【実績】 - ファミリーサポートセンターの交流会に参加し、Oneすてっぷあしやのメンバーがドリップコーヒーを提供。「美味しかった。」や「時間を計ってコーヒーを入れているんだ」と言っていたでき、お代わりを求める方もいて、概ね好評だった。 - 地域のボランティアグループへ、めーむひろば就労体験（福祉センター）の周知を行った。実際に参加されている方にもお話しいただき、Oneすてっぷあしやの取り組みについても説明を実施。 - 阪神南障がい者就業・生活支援センターの会議に毎月参加し、連携を図った。 - 障がい者相談支援機関から、くろまつ等の問い合わせがあった場合は必要に応じて面談に出席し案内を行った。 - 総合相談連絡会や支援調整会議に社会参加担当者が参加し、連携を図った。 【評価】 - 地域のボランティアグループにOneすてっぷあしやメンバーの取り組みについて、知ってもらい、繋がる機会になった。 - 参加可能な会議体に参加し、他事業所との連携を図った。 【課題】 - 障がい分野との連携は比較的多いが、今後、地域包括支援センターや児童分野とも連携を図っていく。	3カ月に1回(または随時)開催の多機関協働支援会議に参加する。 - 多機関協働推進委員会に参加する。 - 社会福祉協議会（地域福祉係等）と連携し、地域のボランティアグループや地域住民の方とのつながりをもつ。 - 阪神南障がい者就業・生活支援センター、障がい者相談支援事業と連携を図る。	【実績】 - 多機関協働支援会議や多機関協働推進委員会に積極的に参加し、本事業について共有したり多機関での取り組みについて知る機会になっている。 4月からほっとかへんネットの一員として、芦屋市内の社会福祉法人の方々と情報共有や意見交換をして関わっている。（今年度は地域の子どもの社会的孤立を防ぐために、だれでも気軽に参加できるようなプログラムを企画）また、地域の店舗や支援機関に寄ってカフェの案内を置いてもらい、事業の周知を行った。 - 阪神南障がい者就業・生活支援センターの会議に毎月参加し、連携を図っている。 【評価】 - 自立相談支援事業と情報の共有を行うことで、該当者への支援や利用の促進に努めた。 - 参加可能な会議に参加し、他事業所との連携を図っている。 - 地域の団体にOneすてっぷあしやメンバーの取り組みについて知ってもらい、繋がる機会になった。 - 若年層の相談が多い傾向にあったため、年代に応じたプログラムの検討や関わり、支援の進め方を、ケースを通じて自立相談事業担当者で共有することができた。 【課題】 - 様々なニーズに対応できるよう、継続して他分野、多機関と連携していく。
周知・啓発	- ひきこもり状態の方やそのご家族向けに相談会を実施。（年1回） - 年に2回程度チームYoake（困窮）の取り組み内容を機関誌として発行を検討。	【実績】 - ひきこもり状態の方やそのご家族向けに相談会（ひきこもり・不登校からの一歩～家族とともに～）を実施。その後、寄ってカフェを開催し、約10名の方が、Oneすてっぷあしやメンバーがくれたコーヒーを飲んで過ごされていた。 【評価】 - 相談会の後で、寄ってカフェを設けることで、来場した方同士や講師の方とも意見交換ができる場になった。 【課題】 - ご家族だけでなく、当事者やひきこもり経験者が交流できる場を、話し合いながら作っていく。	- 年に1回ひきこもり状態の方やそのご家族向けに講座や勉強会を実施。 - 年に2回程度チームYoake（困窮）の取り組み内容を機関誌として発行を検討。	【実績】 「ひきこもり・不登校」家族のためのセミナー（主催 芦屋市社会福祉協議会 全4回）を共催で実施予定。 - 令和7年度のチームYoake通信Vol.3を7/1に発行しました。多数の目に触れる場に掲示・配布をして周知している。 【評価】 - チームYoakeで定期的に打合わせを実施し、事業周知のための機関誌を発行することができた。 - 機関誌Yoakeを発行することで実際の取組の様子を写真を交えて知ってもらうことができた。また、多機関が集う場で説明を実施したことで、取組内容の周知ができた。 - 近隣の高校で福祉的な支援が必要な学生について学校と連携しながら関わる事ができた。 【課題】 - 機関誌を活用しながら継続して事業を周知していく。 - ご家族だけでなく、当事者やひきこもり経験者が交流できる場を、話し合いながら作っていく。